

議会の豆知識「一般質問ってなに？」

一般質問とは、議員が議案とは関係なく市長に対し、市が行う福祉や教育、インフラなどのさまざまな事業についての現況、問題点、将来の方針など幅広く質問することです。
一般質問は、市民の代表である市議会議員が市の考え方をチェックし、市民の思いや要望を市民サービスに反映させる大切な役割を果たしています。

不登校児童・生徒への支援について



坂田 議員

問 校内別室指導支援員(以下、支援員)の役割と選定基準、採用方法、採用に当たり、適性のある人材の判断については。

答 支援員は、生徒一人一人の状況に応じた支援を行う役割があり、教員免許など、必要な資格は特にないが、官報情報検索ツール、教育職員免許状の失効・取上げ情報を確認することも、担当課または学校において面接を行い、慎重に判断し採用している。適性のある人材の任用に当たっては、教員や学校勤務の経験があり、実際に不登校などに関する相談業務に従事していたなど、経験を考慮し採用している事例がある。

問 児童・生徒からの相談や他の教育機関との連携については。

答 都教育委員会の実施要綱に基づき、校内別室を生徒が安心して、自己存在感などを感じられる場所にするともに、少人数での関わりをきっかけに、教員や友達とのコミュニケーションを活性化させたりする機会を充実させることが大切だと認識している。

答 生徒からの相談は、まずは支援員が相談に応じるとともに、教員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの職員が相談内容に応じて対応している。他の教育機関とは、校内別室と梨の実ルームを併用している生徒に関して、生徒の様子について情報共有している。

問 校内別室指導支援員制度の今後の充実については。

答 都教育委員会の実施要綱に基づき、校内別室を生徒が安心して、自己存在感などを感じられる場所にするとともに、少人数での関わりをきっかけに、教員や友達とのコミュニケーションを活性化させたりする機会を充実させることが大切だと認識している。

孤独・孤立を感じている高齢者の対応について



榎本 議員

問 孤独・孤立を感じている高齢者への対応については。

答 地域包括支援センターや市の窓口、民生・児童委員や地域包括支援センター職員の訪問の際に相談があった場合、本人の意向を尊重し、ふれあい電話、ふれあいセンターの紹介や、みどりクラブ、地域の通いの場を案内するなど、高齢者に寄り添った対応を行っている。

問 75歳以上の方が孤独・孤立を感じたまま過ごした場合にはどのようにすると認識しているか。

答 高齢社会白書では、生きがいの低下、消費者被害に遭いやすくなるなどが挙げられている。市ではひとり暮らしの高齢者宅を民生・児童委員が直接訪問しているが、拒否する方もい

る。そうした場合、地域包括支援センターの定期的な訪問などで安否の確認をしながら、孤独や孤立について話せる機会をつくれるよう努めている。本人の意向を尊重しながら関係者と協力し関わり続けていくことが重要と認識している。

問 予防対策として年齢の早い段階で高齢者の将来像としての心構えのような案内も必要と思うが、見解は。

答 令和3年度から自分や家族親のための知識の蓄え、社会参加、健康習慣の獲得を目的に、50UP(フイファイ・アップ)講座を開催している。講座の受講により将来像をイメージし、孤独・孤立を感じないような方策の参考にと考えている。

JR南武線南側の市道における歩行者等の安全対策について



湯谷 議員

問 市内におけるベンチの設置に対する市の考えは。

答 本来、歩道の役割は、歩行者が安全に通行するための施設であり、ベンチなどの設置は歩行者の安全確保が図られない場合は認めないが、福祉の観点から、歩道幅員が確保でき、歩行者の通行の支障にならない箇所にベンチを設置している。

問 買い物物途中や買い物帰りの高齢の方、障害をお持ちの方が、猛暑の中、日が当たる道端で休憩している光景を何度も目にしている。熱中症対策としても、休憩場所を設けることは重要なことであると考えている。設置場所としてJR南武線高架下は日が当たらないため、休憩するには最適である。JR南武線高

架下のJRの敷地にベンチを設置することについて市の考えは。

答 土地所有者であるJR東日本株式会社に対し、設置してもらえようお願ひしている。

不登校支援について



つのだ 議員

問 不登校対応巡回教員については。

答 令和5年度から稲城第四中学校に不登校対応の加配教員を配置している。不登校対応巡回教員を、本年4月から市に1人配置し、既に加配教員が配置されている稲城第四中学校を除いた中学校5校を巡回し、不登校の未然防止や早期支援などの取り組みを行っている。

問 教育センターにおける不登校支援については。

答 梨の実ルームにおいては、個に応じた学習、施設を活用した実技教科や集団活動、校外学習による体験活動など、児童・生徒が学びを確実に進められるよう取り組んでおり、教育相談室においては、相談員が電話や

架下のJRの敷地にベンチを設置することについて市の考えは。

答 市では、現地を確認し、設置要望箇所を決めた後に、JR東日本株式会社に対し、ベンチ設置のお願いをしていく。

来室での相談を通じ、児童・生徒やその保護者の不登校に関する相談に丁寧に応じている。また、今年度から教育相談室内に、不登校に関する相談先や近隣のフリースクールなどの案内をするための窓口機能も設置した。

問 梨の実ルームと教育相談室の連携については。

答 梨の実ルームを利用して児童・生徒と教育相談室の心理士とのフリースクールの時間を設定し、心理的な面からの支援を行うとともに、梨の実ルームを利用して児童・生徒に関して、定期的に梨の実ルームの職員と教育相談室の相談員とが情報共有を行うことで、より適切な支援につなげられるよう努めている。

正副議長公務日誌

友好都市 相馬市訪問 (5月25日～26日)

副議長は、友好都市交流ツアーに参加した稲城市民と共に東日本大震災の慰霊碑への献花を行い、追悼の辞を述べました。また、翌日には、伝統行事「相馬野馬追」を観覧しました。



第62回三多摩上下水及び道路建設促進協議会総会 (5月28日)

多摩地域の上水道・下水道・道路の促進協議会の総会に協議会の3つの委員会それぞれに選出されている村上議員(第1委員会)、湯谷議員(第2委員会)、田島議員(第3委員会)と共に出席しました。



第33回稲城市消防団消防操法審査会 (6月16日)

梅雨の晴れ間、2年に一度行われる消防操法審査会で全8分団が一堂に会し、日頃の訓練で培った技術を競い合いました。令和6年度は、第七分団が議長賞を受賞し、表彰されました。



※茶色く太字になっている用語については6面で詳しく説明しています。